

## 本会議での一般会計予算案に対する 賛成・反対の意思表示の要旨

3月26日の本会議で平成19年度一般会計予算案に対する表決に先だち、各会派から賛成・反対の意思表示が行われました。会派がまとめたその要旨を、一定のスペース内で様式は自由に掲載しています。

### 福祉予算の充実と 大型事業の推進を評価

自民党・新和会 新海 栄一

平成19年度の一般会計予算の総額は388億6600万円、前年度比7%増の大型予算で、市民が必要としている施策を確実に推進することのできる堅実な予算編成となっている。

以下に主要事業の概要を示し賛成討論とする。

- 1) 老人福祉、心身障害者福祉、児童福祉などが含まれる民生費は5億6957万円増で、121億3489万円に達し、総額の31.2%を占めている。
- 2) 母子保険、予防、環境衛生などが含まれる衛生費は31億9569万円増で7.8%増となっている。
- 3) 教育費は50億3752万円に達し10.7%の増額。
- 4) 中学校給食は19年10月より実施される。
- 5) 乳幼児医療費助成を現在の3歳児より小学校就学前まで拡大。多摩地区でトップクラスに。
- 6) 中学3年生までの義務教育就学児医療費助成事業を新たに実施。
- 7) 保育園待機児童の解消をはかるため、西国分寺駅前への民間保育園建設促進。
- 8) 公立保育園の改修工事と耐震性の強化。
- 9) 障害児支援策として、学童保育所障害児定員の拡充。こども発達センターつくしんぼの機能の充実。保育園・幼稚園等との連携の確立。
- 10) 高齢者施策の充実。地域包括支援センターの新たな設置(2ヶ所)と年次ごとの拡大。
- 11) いじめ対策として、各校に児童・生徒虐待対応担当教諭を置き迅速な対応をはかる。
- 12) 学校の施設の整備。三小、七小の体育館の大規模改修、耐震強化。一小・六小・九小・十小・一中・三中・四中体育館の大規模改修、耐震補強設計の実施。
- 13) 戸別収集スタートを評価。19年度から3ヶ年のごみ減量化・資源化行動実施計画の策定。
- 14) 都328号線の推進。予定地域の市民、関係者との十分な話し合いを要望。
- 15) 市346号線西武国分寺線立体交差事業の推進。危険道路の解消のため早期着工を要望。
- 16) 国分寺駅北口再開発の推進。交通・防災・環境・下水道の完成・景観・商業活動の活性化等をはかるために早期着工を要望。19年度は都市計画変更、事業計画、権利変換計画の作成・認可に向けた準備作業に入るとのことですので万難を排して早急に進めていただきたい。

### 大型事業のムダをやめ、 くらし応援の予算に

日本共産党市議団 中山 幸子

予算は市民のくらしの実情を反映させよ

市民の平均所得は4年前から14万円減り、市民税は9万円増に。65歳以上で年金250万円の方は2年前より約9万円増。生活は大変きびしい。

- (1)くらしを守り、市民生活を支える市政に
  - ・高齢者の少額所得者の住民税非課税制度の復活を求めた。市長は「低所得者等は国の仕事」と市民の痛みに応えない“心無い”姿勢。
  - ・介護保険認定者は障害者控除が受けられる。

国の基準に照らし制度活用を求めた。また、住宅耐震改修の特別控除は市の仕事の遅れで市民の権利と利益が阻害されている。この2つの控除対応は、一歩でも二歩でも改善方を求めたが、冷たい答弁。改めて早期の改善を求めた。

(2)枠配分方式で穴埋めする三位一体の財源不足  
財政フレームは「枠配分」と4小跡地の売却で数字合わせ。その上、今後も多額な借金の計画が明らかに。借金体質からの脱却をすべき。

(3)大型事業のムダ使いをやめよ

・国分寺駅北口再開発で「テナントのための駐車場(30億円)はテナントの負担に」と求め続けた。今議会で計画に含まれないことが明確に。規模を縮小しての現実路線への転換と地下駐輪場は鉄道事業者の協力を求めよ。

・西武国分寺線の立体交差化では25億円のムダ。安全で早期に整備できる平面交差に。再交渉を。

(4)市政運営について

・枠配分方式は毎年市民施策を33%ずつ減らし、サービスの低下に。今回、学校の光熱水費を4%削り、不足分は学校配当予算で。「子どもを犠牲にする」との指摘に撤回が表明。今後も起きうる事態と「枠配分方式」の撤回を求めた。

・保育園や学童保育所民営化などの方針で、「市が責任を持つ」ことを前提にしてる。しかし、運営をゆだねる以上は市の対応は事後対策になる。これで責任を果たせるのか。行革は効率だけでなく、質の確保・向上を基準にすべき。  
★市長の基本姿勢と市財政の建て直しを提案。開発のムダ使いを聖域にしながら施策の予算を削り続ける「枠配分方式」は市民の望む市政と反する。この路線の是正を求めつつH19年度予算案に反対する。

### 経常経費の削減と 臨時対策債の見送りを評価

公明党 松長 孝

今予算案の特徴は①第四次長期総合計画の初年度にあたり、将来の国分寺づくりに向けての重要な予算編成であったこと。②昨年度に引き続き、枠配分方式により2億6千万円の経常経費を削減したこと。③臨時財政対策債の借入れを見送り後年度負担の軽減に努めたこと。④定率減税の全廃や、個人所得の伸び、法人市民税の増など近年にない市税における歳入増が見込まれた他、旧第四小学校跡地等の売払い収入を見込んだことなどがあげられるが、枠配分方式による経常経費削減の努力や、臨時財政対策債の借入れはしないとした判断を高く評価する。

次に、今予算の課題について述べる。

- 1) “起債や基金に依存する現行の財政体質からの脱却”をめざして、収支バランスのとれた財政構造に転換していくことが重要だ。
- 2) 市庁舎の建替えは、民間のノウハウや活力を導入し、既成の概念にとらわれない幅広い選択肢の中で、建設の具体化を急ぎ進めよ。
- 3) ぶんバスは、市の道路事情によって通せない地区についても何らかの対応をすべきであり、新たな市内格差が生じないよう特段の配慮を。
- 4) 家庭ごみについて。戸別収集で減量の効果

が上がっている。有料化は避けるべきだ。

5) 都市計画道路3・4・6号線と西武多摩湖線の立体交差について。当面は平面交差だが何れ道路の築造を迫られる。小平市等と連携し、西武鉄道の高架化を含めて折衝していくべきだ。

6) 道路のカラー舗装・カーブミラー・道路照明灯は、市民の安全・安心のため、更に整備を。

7) 保育園の耐震改修は、園児の安全を第一に。

8) 障害者の自立支援について。法の施行に伴い障害者の環境が大きく変化し、自らの努力でも補完し得ない状況だ。市独自に施策の充実を。

9) 基本健康診査の個人情報受診者に知らされないままに取り扱われている。適正な運用を。

10) 高金利債の借り換えについて。12件中、2件が該当する旨報告がされた。交渉の余地が残されている。今後とも議会と行政が一体となり、対応していくことをお互いに確認したい。

その他、課題は山積している。今後とも、あらゆる問題の克服に全力を尽くすよう求める。

### 格差拡大を助長する 政策選択はせぬように!

グローバル21 皆川 りうこ

19年度予算は、第四次長期総合計画初年度であり、新たな制度など取り組むべき課題は多い。しかしながら特別会計も含め議案の修正など基本的なミスが昨年に引き続き散見した。市長をはじめとする行政全体の緊張感や危機感に欠け、今後の行政運営において懸念される事態だ。

～自治・分権時代における施策や事業展開か～

従来の補助金要綱通りの事業実施ではなく、市独自で実態調査を行い、市民の実情に合った事業を提供すべきだ。介護保険、障害者自立支援法ではサービスの抑制により不利益になる事態が発生している。機能訓練事業が廃止されるなど仕組みが大きく変わったが、新たな事業を構築する仕組みが見られない。国の制度に追随するだけでなく、福祉の基本条例制定に向け、市独自の事業展開を目指せ。制度改革が進む中、その問題点を担当は把握しているはずだ。市として国に対して物申す姿勢を貫くように。

～事業の選択、集中、優先順位は重要な要素～

あれもこれもできる時代ではない。メリハリのある予算編成が必要で、そのための新たな手法や制度の導入・取り組みは必要。昨年からはまった枠配当予算編成は、一定の効果も生み出した。一方で新たな問題もある。

常に検証と評価を行うなど確認作業を行え。

～政策選択は慎重に～

経済力のある人とそうでない人へのサービスは一律で良いのか。一律により格差を生む状況をつくることにもなる。要保護、ハンディのある等、生活状況の困難な人にこそしっかりとセーフティネットを公の責任で保障すべき。

～庁内横の連携と責任の所在は明らかに～

子どもの権利条例は3課が事務局になっている。主となる担当部署は明確であるべき。管理職自らの遅刻や欠勤で、職場の士気を下げるな。

～協働という言葉による心配される危うさ～

地域での協働が進む一方、行政の下請け、丸